

法人名 社会福祉法人つくしんぼの会

施設名 港南つくしんぼ保育園

発表者名 湯本 このみ
(職名) (保育士)

住所 神奈川県横浜市港南区港南4-2-6

TEL 045-822-2940 FAX 045-882-2941

メールアドレス tkh882@aioros.ocn.ne.jp

URL <http://tsukushinbo.ed.jp/kounan/access.html>

定員 130人 職員数 45人

発表の概要・内容

◎はじめに

港南つくしんぼ保育園では、2007年より軍足で作った手作り人形【マイドール】を渡し始めました。保育園にある玩具はみんなの玩具、でも人形だけは自分だけの物。そんな安心を感じられるものの一つとして作り始め、渡すようになりました。身近にあるこの人形と生活していく中で、自分を投影し〈自分の分身〉のような存在になったり、時には〈遊び相手〉になったり…。そんな大切な存在である人形が側にいるから、色々な場面で一緒にいることで安心できたり、苦手なことも頑張ってみる姿もあります。自我が芽生え”ジブンデ！イヤ！〇〇がいい！”などの自己主張が出始める時期(2歳前後)に渡してきたのは、そんな子どもの心に寄り添い、心の支えの一つとなっていってくれたらという思いも込められています。

◎港南つくしんぼのマイドールについて

一つ一つ人形の表情が違って目や口が小さく単純なのは、子どもたち自身が想像し『付け足す喜び』を得られるようにしているからです。子どものその時々感情を写し取れるように、笑った顔にも怒った顔にも見ることが出来るように作っています。港南つくしんぼ保育園では、保護者にも園だよりなどで取り組みを伝えたり、作りたい方には作り方などもお渡しして一緒に作ったりしています。



◎人形は心の杖

1歳の頃は「ふとした隙間の時間」に人形を求めている瞬間がよく見られます。例えば、おやつを待っている時間になんとか手に抱えてみたり、お昼寝の時には一緒に布団で眠ったり、人形を側に置いて着替えをしてみたり…。大好きな人形が側にいることで安心して過ごせたり、一緒に過ごしていく中で人形が心の杖となり不安も和らげてくれているようです。

◎人形、ごっこ遊びの広がり

【1歳頃】人形と一緒に生活する中で、人形が自分にとって大切な存在となり優しくしてあげたい気持ちも育ってきます。自分が大人にされているように、布団に寝かせてトントンしたり、ミルクを飲ませてあげたり…慣れ親しんだ生活の模倣をしながら人形の世話を楽しんでいます。
【2・3歳頃】人形遊びもより楽しくなってきた、その時の人形の気持ちを想像したり感情移入させながら遊ぶ姿も見られます。例えば「人形の赤ちゃんがお腹を空かせて泣いているから食べさせてあげよう」など自分なりに人形の気持ちを想像して遊ぶことも。誰かが人形を持ってきてお医者さんごっこを始めると、いつの間にかクラス全員で遊んでいることもあります。まだまだイメージを完全に共有して遊ぶことは難しいけれど、同じ雰囲気の中で遊ぶことも楽しんでいます。人形があることで自分の思いを存分に発揮できたり、友だちともイメージを共有しやすかったり…。ごっこ遊びにおけるイメージの広がりを支えていく役割もあるのかもしれませんが。

メモ